

石川県白山自然保護センター編集

はくさん

 第10巻 臨時増刊号

シンポジウム 「白山の保護と利用」



(室堂平より別山を望む)

指定 20 周年を迎えた白山国立公園

昭和 37 年 11 月 12 日に白山国立公園が誕生して、今年は 20 周年となります。ハイマツ、クロユリ等で代表される高山帯はわが国での分布の西限に位置し、広いブナ林を中心とする山地帯には多くの大型野生動物が生息しています。また昭和 48 年から始まったゴミ持ち帰り運動の成果があらわれ、登山者のマナーの良さと登山施設の美しさが広く認められるようにもなりました。

一方では、他の山岳国立公園に比べて少ない登山者数をどうして増やすか、あるいは限度は果して何万人か、さらに山ろく利用者を増やすための方策は何かなどの議論が続けられています。

白山国立公園指定20周年記念

シンポジウム 白山の保護と利用

時 : 昭和 57 年 7 月 17 日 (土)

午後 3 時～ 6 時

所 : 白峰村公民館ホール

主催 : 石 川 県

協力 : 白山麓五か村広域行政推進協議会

白 峰 村 ・ 鶴 来 町



趣 旨

白山国立公園の指定 20 周年を迎えるにあたり、地域の自然を護ると同時に、賢明な利用方法を探り、次の世代へ引き継ぐ白山のあるべき姿を考え、まとめておくためのシンポジウムを開催し、皆さんとともに考える機会といたしました。

プログラム

1 開 会

2 あいさつ

石川県環境部技監 西 正 美

3 基調講演

「21世紀への山岳国立公園」

講師 京都府立大学学長 四手井 綱 英

4 パネルディスカッション

白 峰 村 長 織 田 英 二
 石川県自然保護協会長 木 村 久 吉
 白山観光協会事務局長 北 村 政 次
 金沢大学理学部教授 紮 野 義 夫

司会

(1) パネラーの意見発表

(2) 討 論

(3) 講 評

5 閉 会

進 行：石川県白山自然保護センター所長
 板 坂 三 郎

参 加 者 数

(住所別)

名簿記入者（所属別）	
地元住民（1町5村）	33
県関係機関	26
国 〃	12
地元町村役場	27
学 生	10
報道関係	8
その他不明	44
計	160名

山ろく1町5村	59
上記を除く県内	97
県 外	4
計	160名

その他名簿未記入者、主催者を合わせて200名

白山国立公園の登山施設



南竜が馬場キャンプ場

白山には室堂（表紙）と南竜山荘の2つの山小屋があります。南竜が馬場のキャンプ場と、ほぼ半日コースごとにある避難小屋（ヒュッテ）が12か所あり、時間をかけて山を楽しむ登山者に愛されています。

（12頁の地図参照）



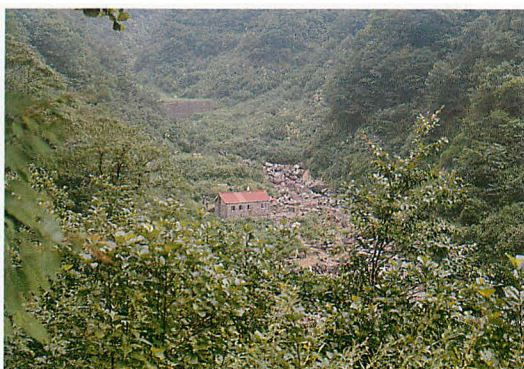
殿が池ヒュッテ



小桜平ヒュッテ



甚の助ヒュッテ



岩間温泉ヒュッテ

21世紀への山岳国立公園

(基調講演要旨)

京都府立大学学長 四手井 綱 英

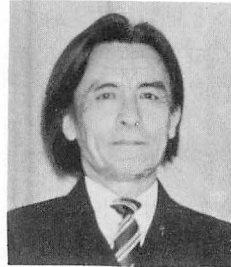
〔日本人の自然観〕

ヨーロッパ人と日本人の自然観にどのような違いがあるかを、私たちがアンケートしてはっきりした事は、山とか森林は入りやすい場所、住みやすい場所とは考えられていないことです。古い時代にはこの感覚はヨーロッパ、日本人ともあまりちがわず、恐しい場所、悪魔の住む場所、盗賊のいるところと思われていました。同様に日本では森や山は神の住む場所で人間の住むところではなく、白山もそのひとつであるように、もともと山へ登るのは信仰や狩りのためでした。

猟師、特にマタギが山へ入っていますが、その時にも儀式によって神の許しを得て山に入っています。山へ入ると里の言葉を発せず山言葉だけで話し、神が与えてくれるものだけを獲物としていただくと考えました。わが国の山の神は、たたりのないよう怒らさず、そっとしておくというのが普通で積極的に幸福をくれるという神ではないように思います。

ヨーロッパの山や森でもよく似ていて、魔女や小人が住む恐しいところでした。ところが産業革命の頃にヨーロッパの森林は製鉄用の木炭を造るためにことごとく伐られてしまいました。現在の森林はほとんど全てといってもよいほど人工の森林になっています。近年は自然林に非常によく似た森林を造ろうという努力がなされています。日本では人工林を造るのが林業と考えられていますが、ヨーロッパでは、自然林を造ることが林業の重要な仕事になっています。その土地に適した自然に近い森林を造ればそこから必要な木材も出てくるという考え方に変ってきました。日本ではまだ木材の生産のためだけ、植林をするという思想が強いように思います。

ヨーロッパと日本の自然観の違いとところを



みますと、日本では山頂などの見晴しの良いところ、景観としてながめるのが特徴です。ヨーロッパでは、深い森の中を歩くことが好きなようです。ゲーテの詩の中にも恋人と森

の中を歩くのが出てきます。日本人が次に好きな自然は、池や湖です。これも湖畔のながめが好きようです。

日本の森林は土壌が良いので再生力が強く下草も多いのに比べて、ヨーロッパでは自然林でも下草が少なく入りやすいのです。

森林や大木を見て神々しさを感じるのは日本人のほうが多いかと思いましたが、都会の人では6割くらいしか神々しさを感じていません。ところが、ドイツやフランスでは90%以上の人が森に神秘さを感じるのです。あなたの近くの森を造っている木を5種類挙げて下さいという設問では、ヨーロッパ人はだれでもそれくらい答えられます。しかし京都で高校の生徒にきいたところ、シラカバとかシダレヤナギとかいう庭の木や他所の木が出てきて自然の木という概念をもっていないということでした。森林は人手で守っていくべきものかどうかの問いにはヨーロッパ人では80~90%が人手をかけて森は造るものだと思います。日本の都会の人では自然の森林は人が手をかけないほうが良いというのが70~80%になりますが、人工林と天然林の2枚の写真を見せてどちらが好きかというほとんどの人が人工林のほうが美しいといえます。

日本では都市公園に木が植えてあっても森林を造っていることは少ないが、ヨーロッパでは都市の中に天然林に近い状態の都市林を

多く造っています。どこまで日本人は自然を知り、真の森林の中を知っているかと疑問に思います。

これからは森林の保護をやっていくにはヨーロッパ人の考え方もとり入れる必要があるでしょう。スキーでも林の中を歩くクロスカントリーが伸びるとよいと思います。森の中を歩くことで自然をよく知り、保護する考え方を身につけることが必要です。

〔日本の登山〕

日本の山登りは信仰から始まりました。またイワナ釣りとカクマヤカモンカ猟も山へ入るきっかけになっていました。明治末期から大正にかけて登山が盛んになってきた頃は地図などなくて、猟師が案内をしたものです。白山でもそうだったと思います。私が中学時代はじめて白馬に登りました時も猟師が案内してくれました。今では青年が地図を持って自分で道を決めて歩きますが、これはヨーロッパアルプスで始まり、ウエストンがジャパニーズアルプスといった頃から日本にも近代登山がスポーツとして広まりました。それ以来、登山者の気風も変わってきました。それまでは神の山へ連れて行ってもらうという気持がありましたが、近年は個人的なマナーの悪さから山が汚れたり、植物が荒されたりするようになりました。

ヨーロッパアルプスやアメリカのロッキーなどは4000mを越える山並みで、緯度も高いので氷河もあります。そのような山へ行きますと森林限界を少し越えるあたりまで、道路やリフトが上っています。それから上も歩いて楽しめる山が標高1500~2000mは残されています。スイスアルプスでは2800mくらいまではリフトがあって、さらに1000mほど上級のスキーヤーにだけ開放されるロープウェイがありました。

アメリカの国立公園では森林限界くらいまでにドライブウェイがありますが、近年は食堂やホテルを公園外へ移住させる方向にあります。

日本の山岳公園はせいぜいが3000mくら

いで、山頂近くによく森林限界があるのが多く、高山帯の草原はスイスアルプスに比べると非常にせまいものです。スイスでは高山帯の草原をアルプとって、牛や羊を飼っていましたが、広さが充分ありほとんど荒れていません。また採ってはいけない植物などは特殊なものだけに限られています。

日本の高山植物は全て採集禁止しているのは、高山帯の面積が狭いからでしょう。

〔登山利用のあり方〕

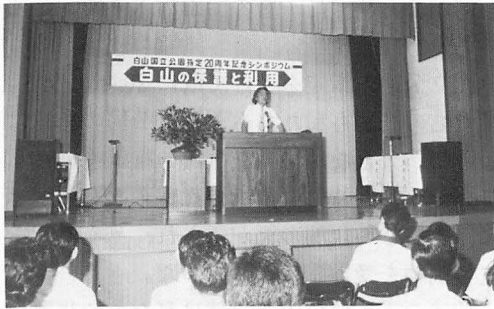
日本の山では登山者が多く高山植物など踏みつけるだけで荒れていくので、許容限界があります。日本アルプスなどでも各地にロープウェイや自動車道がつくようになりましたが、白山ほどの山はやはり歩いて登るべきだと思います。わが国では高山帯がせまいのでそこまで自動車道をつけるのは間違っています。登山にしても人口密度が高い日本では道路をつけて、せまい高山帯へ大量の人を送り込むことはできません。

もともとキャンピングは遊牧民の生活様式から出てきたもので、日本人のような農耕民の中にはあまりなかったものです。キャンプの仕方やマナーは日本では定着していません。アメリカ西部のオレゴン州で森林の調査をした時、若者3人を雇いました。ちゃんとした山小屋があってそこで泊っているのにもいつも1人か2人は外で寝るのです。おもしろいのは、カゼをひいたのがいて、熱があるから中で寝なさいというのに、こんな時は外が良いとって外に寝て、次の朝にはケロツとしていました。たいへん遊牧民的です。

白山では南竜だけにキャンプをしぼっていますが、私はキャンプをさせずに山小屋を作った方がよいという意見を出したことがありました。やはり東洋人には小屋が似合っています。

いろいろ考え合すと結論として日本の山は歩いて登るものと考えています。中でも白山は青年の山、青年の身心を鍛える山とすべきです。国立公園の特殊な地域はだれでもが行けるようにする必要はありません。立山で

ドライブウェイがどんどん伸びていきましたがそれはあやまりです。誰れでもが行けるような施設は山でなく海に造りなさい。山のマナーを習熟した者だけが高山に行けるようにすれば良い。雷鳥が被害を受けたり、高山植物が荒されたり、ゴミで汚されたり、これは日本の大切な財産を破壊していることです。



〔利用と保護〕

国立公園の利用と保護を考える時、何年か前のシンポジウムでも言ったかと思いますが、白山は青年の山であってほしいものです。だれでもが大量に登るようになっては、大切な白山の自然資源、特に高山帯の自然が荒れて白山の価値の大切な部分を失ってしまうこととなります。狭い高山帯ですから、年間利用者は現在の約5万人が限界でないでしょうか。マナーが大変良くなれば、もう少し増えても良いかもしれませんが。

日本人の好む、山をながめる場所をもっと造ってはどうか、今日も知事にお話ししてきましたが、例えば加越国境からの白山のながめの良いところに、多くの人が利用できるレクリエーションの場を造れば良い。谷峠からドライブウェイがあっても良いでしょう。そこから白山を、日本海をながめ、白山に親しむことができます。またすばらしい森林のある白山ですから森の中を歩く楽しみを増進するような利用も欲しいところです。

立山でもドライブウェイができてから、山を知らない人が小屋からすぐのところまで道に迷って凍死をしたり、スキーの団体が遭難したりということが続いています。高山帯へは

マナーと体力のある者だけが行くべきというのが私の主張です。

森林の取り扱いについてですが、村人と森林が共存する必要があると思います。何も山の木はすべて伐ってはいけないとは言えません。しかし、人工造林だけが林業ではありませんので、ブナ林はブナ林として永續できるような利用をしなければなりません。幸い広葉樹の材も高い価値が認められるようになってきました。

人工林を造るにも、自然林に近い森林の管理をしなければなりません。標高900m以下のゆるやかな山ではスギの人工造林をしてもよろしい、あとはブナ林として更新する方法で、1200m以上は伐らない、というようなことで営林署の経営を考えてほしいとあります。

さらに地元白峰などでは木材の加工で生計を立てることも考えられます。家具やがん具、調理用具で、木製品が見直されてきています。地元で加工し材質・デザインの秀れたものを作って、付加価値の高いもの、つまり新しい木地師の復活、をねらうとよいでしょう。山菜にしても、町の人が荒していくのでなくて、山の人が十分に管理し、価値のあるものとして出すべきです。

私をはじめ白山へ来たのは昭和4年だったと思います。その時は白峰で一泊し次の日に室堂で一泊しました。近年短時間で行けるようになってくると、山ろくの村は素通りでゴミしか落してくれない。これは山ろくの住民にとっても不満でしょう。山ろくの村を何か魅力のある村、途中一泊してみたくなる村にしてほしいものです。昔の生活を懐しく思う人や知りたいと思う人が泊って生活するのも良いでしょう。

白山の高山帯は青年のものとする、多くの人が森の中へ入って、白山をながめて親しむように、また貴重な自然資源は価値の高いものにして村人が利用し、山ろくの村を外来者にも魅力のあるものにする、白山国立公園の価値を落さずに21世紀に向けて利用し、護っていく方法と考えます。

地域振興と自然保護の調整

白峰村長 織田 英二



白山は古来、日本の三名山として、多くの人々から崇敬されている信仰の山であり、私たち白峰村の祖先も、その長い歴史の中で、白山を誇りとし、厳しい白山の大自然とともに生活を営み、育まれてながら、いろいろな生活文化を今に残している。白山の自然は、私たち白峰村の何ものにも替え難い唯一の財産であり、私たちの手で守って行かなければならない。

一方、白山の地層は極めて脆弱で、ここに源を発する手取川も急流であり、屢々、土石流の多い大洪水となり、流域に大きな被害をもたらしている。昭和54年春下流洪水調節などを包含した手取川ダムが完成したが、昨年7月の梅雨前線による集中豪雨の跡を見ても

上流部での対策はまだまだゆるがせにできない問題であり、尚一層の治山治水事業が必要である。

国立公園の指定を受けて既に20年になる。私たちの先輩も私たちも、国立公園の指定によって、大きな地域開発振興の推進を期待していたが、期待に反して自然保護の名のもとに、きびしい規制の網が張られ、私有財産さえも制約を受けることになった。

前述のように白山の自然は私たちの得難い財産であり当然私たちが大切に守りながら豊かな地域づくりを推進しなければならないと考えているのに、ときとして私たち地域の手で破壊して行くようなことが言われる。外からの忠告は素直に聞かなければならないが、接点はどこにあるのだろうか。厳しい規制にもかかわらず自然を活用した地域に密着した考え方や施策が余りにも少ない。こんな考え方では本当の意味での自然保護は出来ないと思う。

地域振興と自然保護との調整は、今後の大きな課題であり、地域との合意を得られる抜本的な対策が必要である。



美しい山と土に生きる住民

石川県自然保護協会長 木村久吉

平野長英氏は尾瀬の長蔵小屋主人、次のような文章を『花の友』15号（日本花の会1981年）によせている。

“(前略)こんな素晴らしい尾瀬も今のままではやがて荒れ果てるかもしれない。かつては電源開発で「トンボか電力か」「苔か電力か」と論議をまき起し、水没の最悪事態は避けられたが、沼尻堰堤などで尾瀬沼の取水は続けられ、沼の水位は1～2メートルも上昇下降の変化で周辺のオオシラビソは枯死した。現在はことに年間数十万人の入山では湿原は踏みあらされ、屎尿や残飯、ゴミ、空き罐、ビンの始末などで荒廃の寸前がある。非常に傷つきやすいデリケートな優しい自然だけに、キャパシティを超えた過剰利用は、入山制限などで何とか規制しなければ、尾瀬は死んでしまう。鬼怒川スーパー林道も観光客殺到でパンクに拍車をかけそう。現代人だけ楽しんで費やし尽くしては子孫に対し申し訳ない。永く後世子孫にも遺すため昭和のわれわれは、ほどほどに我慢して自制しなければならぬと思う。”

何も尾瀬沼（昭和35年、特別天然記念物に指定）をあげるまでもなく、私が知る限り、大雪山、出羽三山、上高地、立山、御岳山、大山、久住山など、更には石川県内においても倉ヶ岳、医王山、舟見山、大倉岳などで、このような『屎尿や残飯云々』による惨状をいたるところでみる事ができた。白山は以上に比し、ことに昭和48年以來のゴミ持帰り運動の定着以来、砂防新道、観光新道をはじめとしてきれいな山岳道路に急速に復活した（白山地域に残された他地域の浄化については今後の対策を協議、実施したい）。

但し、登山人口の増大が屎尿問題によりやがて暗影を投げかけ始めている。1981年夏の弥陀ヶ原、三ノ越地域の尿臭発生は室堂の下水



処理に限界の生じたことを示してはいないか。スーパー林道もこれらを専ら観光用に供したため、マイカーの増加とともに急速に源流域の汚染をはじめていないか、対策の具体化をはからねばならぬと思う。

白山山麓諸部落は、既に自給自足的な生産性は失われてしまっているが、わずかに白山紬、堅豆腐、民具、山菜加工品などのみが、外との交易品になっている。山村での経済を観光にのみむけるときは民具、山菜など土産品もやがて大量生産する地域から移入して売らねばならなくなるであろう。このことは岐阜県白川村、富山県五箇山地域で公然のこととなっている。第一次産業をもって山村の人口を維持することは現在ではきわめて困難なことであるが、何とかここにも希望を持ち得るよう施策を進め、かつては、悪条件の長期的重層にもかかわらず、土に生きる者としての自覚の上での労働に耐えていかれることを希みたい。薬用資源の生産にいくばくの協力がなり得ることで、私の知識や経験が役立ち得ればと考え、若干の意見を述べたいと思う。

（石川の自然12—5、1982年に内容追加）

山麓地域への遊客を温泉、少年自然の家、スキー場など以外に何を求め、多角的には何を行えば魅力的たらしめ得るのかについても二、三考察してみたいと思う。

神の山白山

(勲)白山観光協会常務理事・事務局長

北村政次

白山は全国27の国立公園の中でも特異な存在と考えることが出来ます。それは国立公園20年を迎えた今日でも登山者は相変わらず5万人前後（これも日がえりを入れて、宿泊者は南竜荘を含めても3万人前後）です。

これは観光の面からすればかならずしもこのましい状態ではありません。また白山観光協会の立場としても満足する数字ではありません。然し自然保護の立場からすれば好ましいかも知れません。白山がゴミの持ち帰り運動をおこして今日までそれなりの努力を続けて、「白山はゴミのないきれいな山」として新聞にもとり上げられ、又環境庁長官より表彰をうけましたが、一寸皮肉な云い方をすれば白山に10万20万の登山者があっても、然もゴミのないきれいな山であってこそ初めて自慢して良いかも知れません。

白山観光協会としては「自然保護」と「観光開発」と云う矛盾した問題をかかえながら将来もあゆみつつけるものと思われま

す。白山が古来「神山」「神体山」として日本三名山の一つとして、詩や歌にうたわれ然も約1,200年も前の養老元年(717年)すでに越前の僧泰澄大師によって開かれ、「白山登山」と言わないで「白山登拝」と云ったのはなぜか？それは白山信仰はお水への感謝の気持であったからです。

この水の「恩恵」「おかげ」ということが、昔の人は「白山比咩大神」として祀り「白山」を霊峰としてあがめたのであります。

白山は前記の通り7世紀頃から世に知られ、山岳信仰の盛んになるにつれて多くの登拝者があり、早くから開けたにもかかわらず、この広い地域の自然状態があまり破壊されず、原始に近い状態で今日まで残っているのは「神山」「神体山」として仰がれたからです。私は白山こそ最も古い山であると共に一面最



も新しい山とっております。そして孤高の山なるが故に頂上からの白山景観のすばらしさ、原生林と豊富な高山植物、そして歩いて登る苦勞に値いする山とっております。

この大自然の恵みに依って「生かされて生きている」石川県民は直接間接に大変白山の恩恵をうけているわけで、一例をあげれば、最近の手取川ダムの完成によって金沢市、小松市はもとより南は加賀から北は能登半島の羽咋郡押水に至るまで、石川県人口の約3分の2にあたる14市町村約83万人の飲料水を供給しております。

白山が益々県民にしたしまれる山、誇りうる白き神々の座白山、の自然に対する感謝の気持を持ちつつけてほしいものです。地球上には人間だけが生きているのではない他の動植物もいる、無限の欲求を求めていくと自然破壊につながります。

私は日頃一木一草にも神がやどっているとの信念であります、皆様も昔の人々の如く素朴で敬虔な気持で自然に接してこそ、白山の自然は永遠に保たれ、いかに多くの登山者があっても白山のすばらしい自然が保たれるものと信じております。又そうでなければならぬと思っている一人でございます。

白山地域の現状と課題

金沢大学理学部教授 紺野義夫



国立公園としての白山は、ここ20年の間に、かなりの変貌をしてきたが、他の山岳地の国立公園にくらべて、変貌の度合いが少なかったことがひとつの特徴である。その間、多数の登山者(観光客)を誘致するための開発指向と、山の自然を守るためには現状を保全すべきであるとする意見との間に、かなりの矛盾と対立があったことも周知の通りである。

結果として、頂上部を中心とする白山のいわば聖域が、著しく損われることなく守られてきたことは、喜ぶべきことである。かけがえのない山の自然の尊厳を守るためには、大量輸送による無制限の開放はさげなければならない。と同時に、真に山の自然を愛する人

たちにとって、心にのこる美しい山として印象づけられ、登山や自然保護のモラルを身につけうる場所として、いろいろな整備や工夫が今後とも必要なことは言うまでもない。

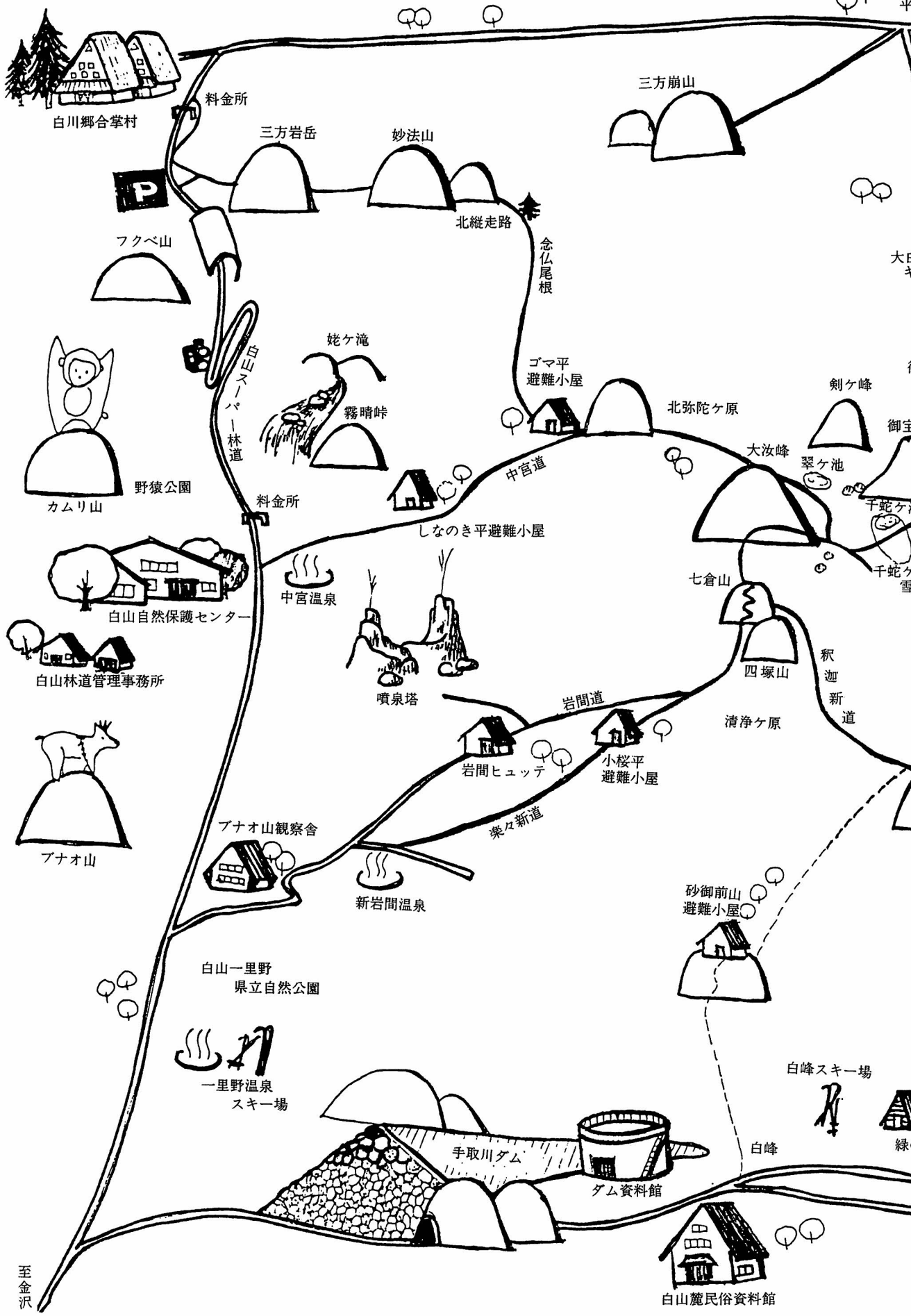
白山の魅力とは何だろうか?人によってさまざまであろうが、よき、すばらしさを深く認識し、ひろく知ってもらうことが、真に山を生かし守っていくことの前提になる。開設10年を経た白山自然保護センターの意味と役割も、改めて検討すべきことであろう。

白山地域の二大プロジェクトであった、白山スーパー林道と、手取川ダム湖にまつわる諸問題は、白山地域の将来にとって重要なポイントである。また、山地におけるブナ林の伐採計画と保全の問題、周辺地域の観光開発計画のありかた、山麓斜面の砂防と破壊防止などなど、衆智をあつめて慎重にとりくむべき課題はたくさんある。

白山の聖域をよりよく維持し正しく利用するためには、石川県側の周辺地域のみならず、飛騨側や越前側を含めた緊密な連携が、より一層進められねばならぬと思う。



白山の高山植物の代表クロユリ



至金沢

白川郷合掌村

料金所

三方岩岳

妙法山

三方崩山

フクベ山

北縦走路

念仏尾根

姥ヶ滝

霧晴峠

ゴマ平
避難小屋

北弥陀ヶ原

剣ヶ峰

大白キ



野猿公園

カムリ山

料金所



しなのき平避難小屋

中宮道

大汝峰

翠ヶ池

千蛇ヶ池

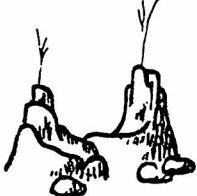
千蛇ヶ池
雪洞



白山自然保護センター



中宮温泉



噴泉塔

七倉山

四塚山

清浄ヶ原

積迎
新道



白山林道管理事務所



ブナオ山

ブナオ山観察舎



新岩間温泉



岩間ヒュッテ



小桜平
避難小屋

楽々新道

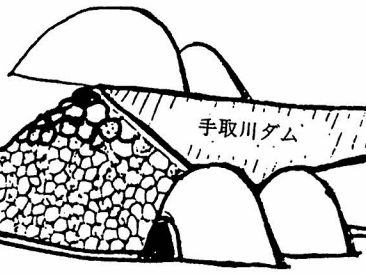


砂御前山
避難小屋

白山一里野
県立自然公園



一里野温泉
スキー場



手取川ダム



ダム資料館

白峰スキー場



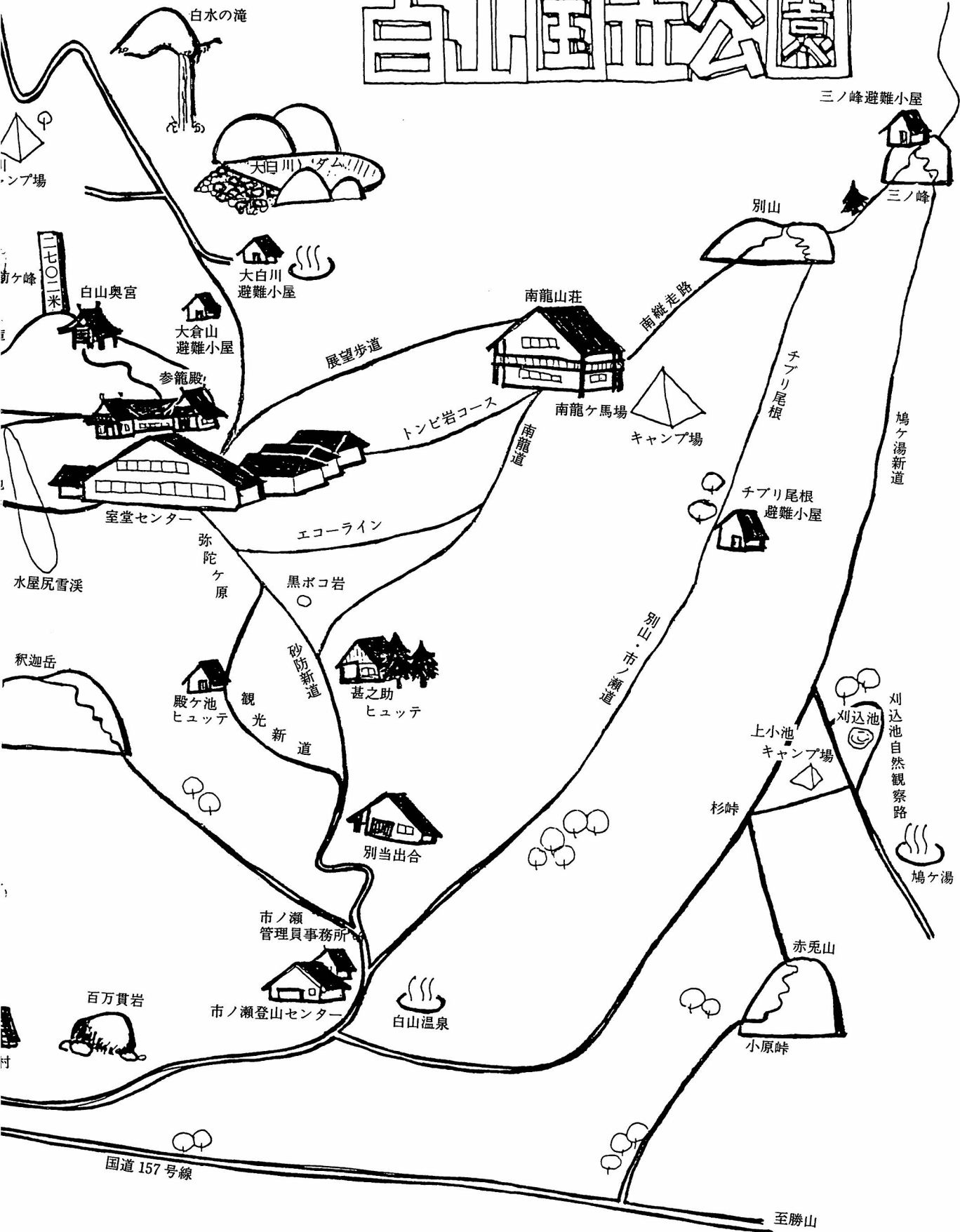
白峰

緑の



白山麓民俗資料館

白山国立公園



白水の滝

大日川

大白川
避難小屋

三ノ峰避難小屋

三ノ峰

別山

白山奥宮

南龍山荘

南縦走路

大倉山
避難小屋

南龍ケ馬場

チフリ尾根

展望歩道

トンビ岩コース

キャンプ場

参籠殿

室堂センター

エコーライン

チフリ尾根
避難小屋

鳩ヶ湯新道

水屋尻雪溪

弥陀ヶ原

黒ボコ岩

殿ヶ池
ヒュッテ

甚之助
ヒュッテ

砂防新道

別山・市ノ瀬
新道

観光
新道

上小池
キャンプ場

刈込池
自然観察路

釈迦岳

別当出合

杉峠

鳩ヶ湯

市ノ瀬
管理員事務所

赤兔山

百万貫岩

市ノ瀬登山センター

白山温泉

小原峠

国道 157号線

至勝山

討 論 会

司 会 糸 野 義 夫

〈司会〉

基調講演で、世界的な山の国立公園の動きと白山のあり方を聞いていただきました。今日のテーマ「白山の保護と利用」について、皆様から活発な御意見と討論をいただき、このシンポジウムを意義あるものになりたいと思いますのでよろしくお願いします。

〈県山岳協会の人〉

古くは信仰が目的で特定の人が登る山でしたが現代はより多くの人が登れる山にするべきだと思います。昔は強力ごうりきによって資材を運搬していましたが、今ではヘリコプターも使えるなど、設備や管理面でも進歩しているので、いつまでも3万人の登山者にこだわる必要はないと思います。白山の登山と山ろくの観光振興がともに伸びていく方法はまだかくさされていて、工夫次第で利用者が増やせるものと思います。しかし、排気ガス等の問題もあるので、車道を高山帯へ上げることは必要ありません。

〈司会〉

現状の登山者数でよいのか、もっと増やす方向で検討すべきなのかをパネラーの方々にうかがいたい。

〈北村〉

観光協会としては、日帰りも含めて5万人の登山者というのは少ないと思っています。もう少し増えてほしいとは望んでいますが、施設の点やせまい山頂をみると10万、20万人が登れる山とは思っていません。環境庁としては現状くらいの数で良いと考えているようですが、そうであれば、登山者は5万でも山ろくも含めた山全体で多くの人が白山の自然と親しめるところであってほしいのですが。

〈織田〉

山ろくの振興のためには、山の誇りだけではどうにもなりません。現在ある別当出合から中飯場までの資材運搬道路を県道にもらって市の瀬からバスで登山者を運ぶことを提起しています。また南龍や一里野の方でロープウェーの計画もありました。白山をながめる場所を開発することは賛成しています。これに対しては、行政の足なみがそろうことが必要で、関係機関でも考えてほしいところですよ。

〈木村〉

白山に登って泊まれる数はこれ以上大きくすべきでないと思います。すでに、広くはないお花畑の荒れも見られますし、飲料水も足りないと思います。

福井県境から、また奈良岳方面からの展望地点と登山道を研究して開発すれば、河内村から白峰村までの広い範囲が、白山の登山基地となりうるのではないのでしょうか。

〈四手井〉

山岳国立公園は登るだけでなく、例えばスイスでは、マッターホルンのふもとにグリーンデルワルトとかツェルマットという基地の町が栄えています。しかし実際に山頂へ登る人はごく少数しかいません。それらの町ではひなびたサービスのホテルがあって、多くの人がそこから山をながめ、独特の魅力ある山ろくを楽しんでいます。シュバルツバルトでも、今までどうり牧場をやりながら牛小屋の一部を使用した民宿に多くの人が泊っています。わが国でもゆっくりと遊べる山ろくを目ざすのが今後の利用でないでしょうか。

〈白峰開発公社の人〉

四手井先生の御意見に賛成するものです。しかしこれまで白山から地元民が得ることが

できるはずの利益を自然保護のため、規制によってかなりの部分、損をしていることは事実です。昭和53年の県観光物産課の調査では、白山地域を観光・リゾートエリアとしてあります。そこに収容された客数約45万人のうち、登山者5万人、山の宿泊者3万人にすぎません。私も5年程前から民宿をしています。スキー客は多く来ますが登山者はほとんど泊ってくれません。やはり山ろくに魅力のある対象が少ないからです。提案したいのですが、1000~1500mくらいの山を開発したいと思います。例えば白峰高原スキー場の青柳山からジブネの尾根のすばらしい白山の展望を生かしたい。これら一連の開発に対して、行政はブレーキをかけないように、地元民の期待に対して支援をしていただきたいと思います。

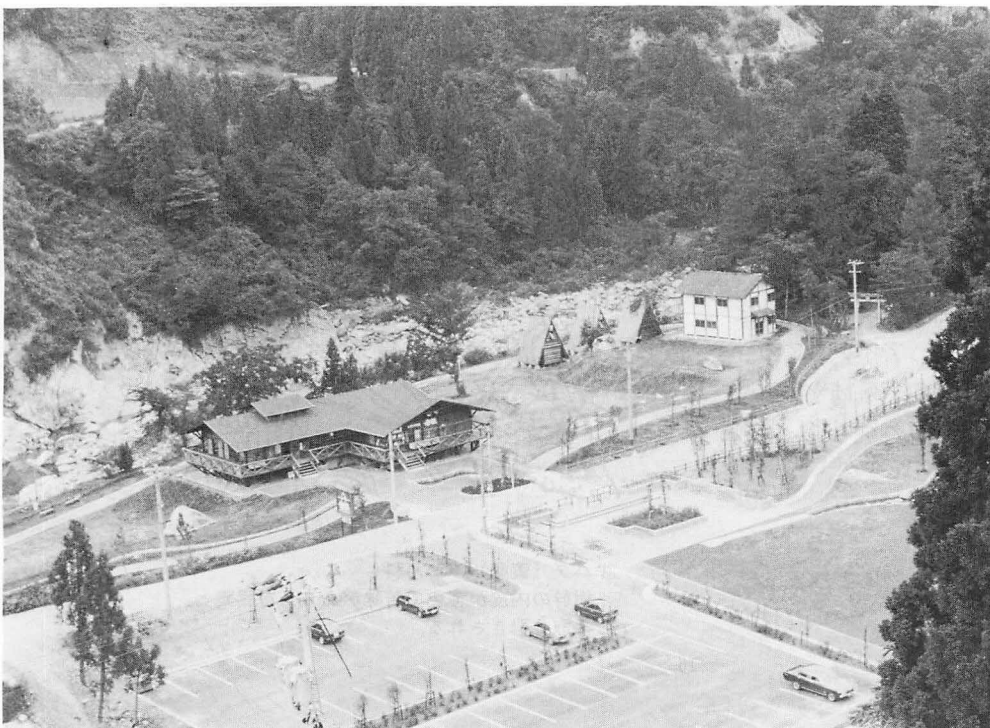
手取川ダムの湖面利用は現在全く行なわれていません。建設時点には湖面の観光利用を考えていなかったが、今後の山ろくの観光の一つとして考えていきたい。ダムや発電で、手取川の上流部ではほとんど水が流れていません。川の水が奪われていては、観光地の雰囲気作りはできるはずがありません。手取川ダムができてから桑島発電所の能力が小さくなった現在、それを廃止して水を流しても

らえないものでしょうか。雨が降れば泥水が流れ、晴れば干上ってイワナが死んでしまう川では、満足な自然休養村の活動はできません。これらの点で魅力ある村と、われわれの環境作りが進めば、白山の自然保護にも合うものとなるでしょう。

〈四手井〉

数年前にダムで沈んだ場所を見ようとして、九頭竜ダムへ行ってきました。観光船を浮かせたり、ニジマスやイワナを放流して釣らせたりしていますが、魚は増えているのに釣れないし、観光船も乗る人がなくて動かなくなっていました。あらゆることをやってみたけれど、良い案がないと地元民は悩んでいました。一度見に行ったら良いと思います。

最近行政に対する要望が多く、補助を受けたり、上から押しつけられた開発が多く、どうもうまくいっていないと思います。住民が自らの知恵と努力と資本で、開発すべきです。それがうまくいきそうなら、地方自治体が、大きく発展するように援助してやるというのが良いと思います。何年も前に白峰へ来たらスキー場の牧場の草を食べさせるといって、牛がいましたが、あとできてみたら牛がいなくなっていました。あれも行政の押しき



白峰村自然休養村
「みどりの村」

せの事業だったのではないのでしょうか。村の人が生活するために上を見て、金をくれなきゃなにもできないというのではなく、自分から苦勞して開発し、それを見守りながら援助していくのが自治体の役割です。

〈河内村役場の人〉

白山ろくには現在人口が8000くらいしかありません。山岳国立公園のふもとはどこでも過疎で悩んでいます。21世紀へ向けて、四手井先生のおっしゃる山林の保護が必要なことはもっともですが、現在の人の流れでは放棄される方向にあるのではないかと心配です。今後この国土の中の広い山を、だれが保護し、だれが管理していくか、先生の御意見をうかがいたいと思います。

〈四手井〉

大変むつかしい問題ですが、最近Uターン現象が見られ、過疎がスピードダウンしています。京都の芦生ではUターンした青年が山菜加工をして京都のデパートへ出していたり、町の青年が山村へ来て、木工芸品を作って成功しています。都市の過密人口への反省から村で生きる生き方を考えて、町の青年が村へ帰ってくるような魅力ある村にすれば、山村の人口が将来ゼロになることはないと思います。もちろんこれには行政が大きく関与する必要があります。

〈木村〉

大阪の人が、離島喜界が島で熱帯果樹を作って成功しています。近年の静岡の一番茶といわれるのはほとんど屋久島で作っています。村で何をしたらよいかのアイデアが欲しいといわれるが、町の人をつれ出して活動をもり上げることもできます。キハダにしても白山ろくで加工して薬品として販売すればよいのではないのでしょうか。アイデアのもう一つは、北海道のアイヌの芸術村や富山県井波町の木彫など若者に魅力ある文化、芸術的な特長をもつというのはいかがでしょうか。

〈司会〉

限られた時間ですので、このあとなるべく多くの方から提言のようなことをいただけない

いでしょうか。

〈白峰村の住民〉

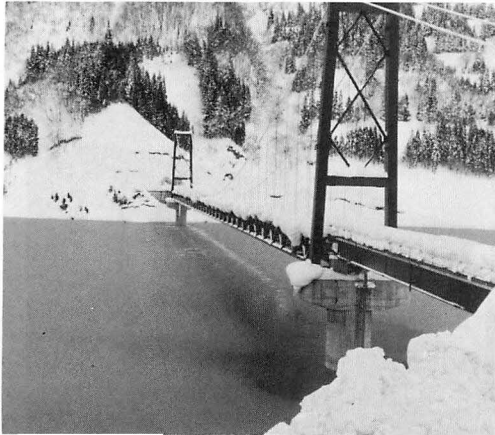
今日はいろいろな先生方から貴重なお話をきかせていただきました。私たち住民は平素よりこのようなことを考えているので、もっと金沢など町の人に、この山の話聞いてほしかったと思います。私たちにとって山は空気のようなものになっています。白山は美しいゴミの無い山といわれているのは市の瀬から上の登山道だけで、他の谷や林道へ入れば、あきかんや弁当が散らばっていて、最近はとくに多くなってきました。町の人はそのことを知っているのでしょうか。登山道だけでなく、山ろくの自然探勝の場も美しく保つよう皆で叫んでほしいものです。

手取川ダムができて、洪水調節の役目を果たしています。昨年7月の大水の時もダムから下流ではほとんど被害はありませんでした。しかしダムから上流では、道路などに大きな



(牧野富太郎原図)

キハダ (黄蘗) みかん科
樹幹の内皮が黄色で苦味があり、胃腸薬として取り引きされる。



冬の手取川ダム湖

被害が見られたのに、一部のえらい人は手取川はこれで治ったと言っています。ダムから上流に人が住んでいて、大きな崩壊地もあることを下流の人は忘れないでほしいものです。

〈観光関係の出版関係者〉

山ろくは魅力のないところと皆さんが言っているようですが、金沢から見ると決してそうではありません。堅豆腐も白峰のものが有名なはずで、金沢でもよく使っていますが、ほとんど下流の方で作られたものを使っています。買いに来て日曜に来ると店がしまっています。これら名物のPRと売ろうとする努力が足りないのではないかと思います。

山中町の山村でも、県民の森ができたことなどで、町の人が帰って来つつあると聞きます。

白峰は十分魅力ある村だと思います。白峰とスーパー林道を結ぶ工夫をするなど、もう少し調和のとれた開発をすれば観光客にも村の若者にもよい村になるはずです。

〈ある開発コンサルタントの人〉

白山は歩いて登る山で、登らせ方に問題があると思います。原則として登山口を市の瀬または白峰とし、そこに車をおいて、白峰一市の瀬間はバスで入る方法を提案したい。

白山について幼児期からの教育が大切と考えます。人間と自然とのなりわいを身につけておけば、大きくなって山への登り方、山との接し方もおのずとかわってくるでしょう。

白山ろくの住民は、自らの手で、白山を知り、魅力を開発する研修センターを創ってほしい。過疎化で各地に空屋が出ているが、それらを使って、学問的に深くなくても、外部の人も興味をそそるような自主的なものとしてほしい。21世紀へ向けて、魅力ある村にすることも探り出してほしい。

〈四手井〉

小中学校での自然教育は大いに進めるべきだと思います。

〈鶴来町商工会の人〉

白山ろくは広域観光化の必要がある。白山は北アルプスなどと比べると孤峰であり、山ろくもひとまとまりになりやすい。かつては金名線が白山へ来るシンボルであった。そこにあったような蒸気機関車を復活させ、村々を各駅停車で結ぶとよい。全国的にも特長があって、アピールできるものを導入しなければならない。

〈金沢から来た登山者〉

スーパー林道は人が歩けないようになっていたが、白山から、また笈が岳へと歩いて登山できるようにしてほしい。すばらしい展望があるところだ。もう一つは一里野からの旧登山道は歴史的にも、展望の点からも魅力あるコースだ。近い将来、インターハイや国体も考えられる時だけに、新設も含めて多様な登山のルートができるとうれしいと思う。

福井の人が取立山のミズバショウを見に多くやって来ている。日曜には何百人も来ていたという。ミズバショウのあるところは石川県内になるというが、小さい子供づれでも行けて、白山をながめるのにすばらしいところだ。そのような自然の中で遊べるところが、子供のときから山に接し、山を愛する気持を育てるのによいと思う。

毎年2～3回は白山へ登っているが、帰りにいつも白峰の温泉に入って汗を流すのが楽しみなのですが、この温泉は登山者に知られていない。登山と温泉を結びつけるPRは当然あっても良いと思う。

〈山に生きる 5〉 白山室堂の20年前をふり返る



白山国立公園指定当時の室堂

白山国立公園の歴史とともに生きた人とは聞かれれば、白山登山のベテランならだれでもがこの人の名をあげるでしょう。昭和28年から48年まで室堂の主任をされていた木下幸雄さん(57才)を金沢市十一屋町にある写真業の店に訪ね、話をうかがいました。

木下さんの山とのかかわりは、昭和22年にはじめて白山へ登山した時から始まっています。翌23年から、白山観光協会事務局長であった玉井敬泉氏(故人)と室堂の主任であった武幸陽氏(故人)に勧められて写真班として夏の2ヵ月を白山で過ごしておられます。いつか山にとりつかれ、昭和28年に武氏が山を下りたのを契機に室堂主任となりました。白山は、以来昭和30年に国定公園になり、37年には国立公園に昇格、施設整備が進み、登山者が急増するなど大きく変わってきました。

昭和30年頃の室堂を思い出してもらいました。

「あの頃は登山者の最も多い日で約500人でみんなが身内のようなつきあいでした。施設が大きくなって登山者が増えてからは、どうしても事務的なつきあいが多くなりました。苦労したのは水と燃料の確保で、水が不

足すれば万才谷へ米と食器を持って洗いに往ったり、たき木は大倉山までもハイマツの枯枝を採りに行ったものです。灯油で炊事をするようになってから、まき集めの重労働からは解放されましたが、水の確保とゴミ処理にはその後も長い戦いが続きました。」

国立公園となった昭和37年頃には室堂に、春山と秋山で4～5人、夏のシーズン中には約40人の室堂員、診療班と神社の人が働いていました。この頃の室堂員の重要な仕事は、ゴミ処理、水くみとランプの掃除だったといえます。

「空きカンは廃物の手動プレス機をもらって



きて、1個ずつつぶしていました。カンプレスが入ったのはずっとあとで、西塔紀夫さん（46年から環境庁公園管理員）らとゴミ持帰り運動を展開するようになって、ようやくゴミ処理量が少なくなりました。」

「水の確保も沢水を貯える水槽ができるまでは、登山者が多い時に水枯れとぶつかり、困ったものです。黒ボコ岩の下や翠が池から水を引く試みやアイデアがありましたが、結局現在の方法しかなく、うまく使えば何とか足りるようになりました。」

山にいて写真家としても活動できたのではないですかと問うたところ、

「室堂主任となってからは、シーズン中室堂を離れることができず、ほとんど写真に費す時間がありませんでした。また、室堂から山頂以外の広い白山一帯を歩くこともできなかったのが何より心残りです」という返答です。

木下さんは20年にわたる山での無理がたたったのでしょうか、昭和48年に身体をこわされて山を下りました。その後は弟さんの木下道雄さんに主任を譲られて、金沢で写真業を営むかわら室堂員の募集などのサポートを続けておられます。

「近年はだんだんアルバイトの確保がむつか

しくなってきましたね。以前は山岳部に参加していたり、本当に山が好きで、毎年夏になると山で生活できるのが楽しみだ、という人がほとんどでした、この頃はレジャーのための小遣いかせぎが目的という人が多く、何年も続けて来る人が少なくなりました。」

最後にこれからの白山登山について御意見をうかがいました。市の瀬からのルートは初めての人でも老人や子供でも安心して登れる白山であってほしい。そのためには登山道や導標をもっと整備すべきだとの意見でした。

「現在、別当出合から一部車道を歩くことになってますが、車道がある限り、そこを歩くというのは登山の楽しみを大きく損なうことになりますよ。中飯場まではバスなどで上れるようにするとよいでしょう。しかしそれ以上車道を伸ばす必要は全くありません。」

「登山者を制限しようという考えには反対ですね。過去には室堂の宿泊者を予約制にしてはという意見もありましたが、山小屋としてはあまりにも横柄です。」

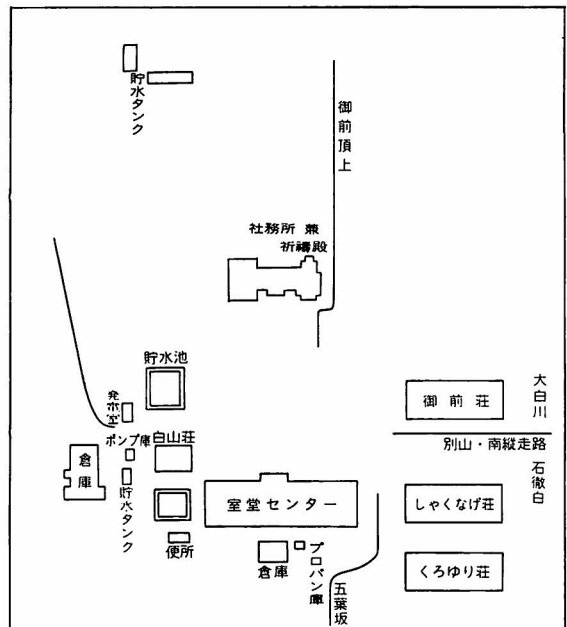
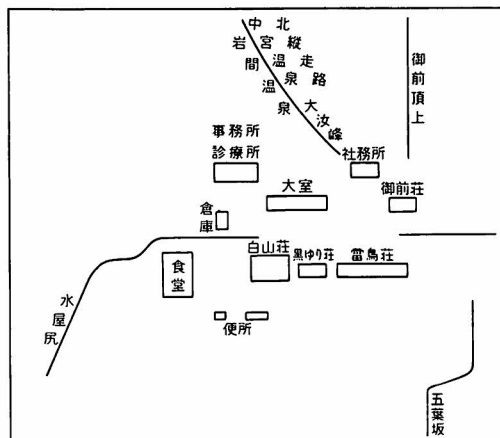
「白山は、ただ山頂を目指すだけでなく、ゆっくり高山帯を味わう山でもあってほしいと思いますね。私は山へ登ろうという初心者には、南竜1泊、室堂1泊のコースを勧めています。」

(文：水野 昭憲)

室堂の施設配置 20 年の変化

(白山観光協会原図)

昭和 37 年(下)と現在(右)



白山国立公園関係年表

年 月 日	で き ご と
養老元年(717)	泰澄白山登攀と伝えられる。
天文23(1554)	白山噴火
明治 7年	ドイツの地理学者ラインが桑島の植物化石採集
40年頃	修験者以外の一般男女が白山登山ようになる。
大正 2年	白山砂防工事着手
11~12	県によって室堂に宿舍建設
13	白山線(白峰~室堂)が県道に
昭和2. 12. 18	金名線(現在の北陸鉄道石川総線)が開通
6. 4	国立公園法が公布
9. 7. 11	手取川大洪水
21	夏期に市之瀬までバス開通
23	白山観光協会設立
23	白峰郵便局白山室堂出張所設立
28. 7	室堂で無料診療所開設
30. 7. 1	白山国定公園(47,402ha)に指定
32. 6	国立公園法が全面改正され、自然公園法が公布
32. 6	岩間の噴泉塔群が特別天然記念物に指定
32. 7	白峰村の化石壁が天然記念物に指定
37. 4. 17	白山下~岩間温泉間及び白山下~中宮温泉間定期バス運行開始
37	中宮温泉、新岩間温泉周辺地域一般計画集団施設地区に指定
37. 11. 12	白山国立公園に昇格
37	石川県が景観地保護事業(民有地買上げ)に着手
40	室堂周辺の園地が完成、南龍ヶ馬場野営場整備に着手
41	室堂ビジターセンター建設に着手
41	ニホンザル「カムリA群」餌付けに成功
41. 9. 2	「白山学術調査団」結成、白山地域の総合的調査開始
42. 7	別当出合までバス運行
42. 9. 28	「森林開発公団施行令」の改正により、白山林道の施行が正式決定、起工
44. 3. 31	白山国設鳥獣保護区設定(38,009ha、期間昭44.3.31~昭64.3.30)
46. 12	白峰高原スキー場開設
48	ゴミ持帰り運動、白山美化清掃事業開始
48. 7. 4	白山自然保護センター開館
48. 9. 1	白山一里野県立自然公園(1,826ha)指定
49. 11. 12	手取川ダム建設工事着工
52. 8. 26	白山林道一般供用開始
52. 12. 5	一里野温泉スキー場開設
54. 6. 1	手取川ダム湛水開始
56. 2	白山、ユネスコの生物圏保存地域に指定
56. 12. 8	ブナオ山観察舎開館

お花畑をいろどる高山植物



ハクサンコザクラの群落



ハクサンシャジン

白山には分布の西限にあたる植物が約 130 種あります。その中にはハクサンという名のものも多く、高山帯のお花畑をいろどっています。



ハクサンイチゲ



ハクサンシャクナゲ



ハクサンオオバコ



ハクサンフウロ

資 料 2

白山国立公園地域別土地所有別面積

単位：ヘクタール

県名	特別 保護地区	特 別 地 域				合 計		
		第一種	第二種	第三種	計	国有地	公有地	私有地
富山	168	—	1,088	1,573	2,661	1,644	—	1,185
						2,829		
石川	9,808	1,896	1,428	12,603	15,927	16,729	2,729	6,277
						25,735		
福井	220	380	1,356	3,239	4,975	1,113	36	4,046
						5,195		
岐阜	7,664	—	3,905	2,355	6,260	12,380	1,182	362
						13,924		
合 計	17,860	2,276	7,777	19,770	29,823	31,866	3,947	11,870
						47,683		
						100%		

資 料 3

白山国立公園利用者数

施設別	年 別	昭49	昭50	昭51	昭52	昭53	昭54	昭55	昭56	備 考
室 堂 小 屋		24,140	27,004	21,633	24,613	26,152	23,991	21,028	24,242	営業 5～10月
南 龍 山 荘		613	811	974	2,083	1,833	2,116	1,780	2,265	7～8月
南 龍 野 営 場		2,742	3,876	2,382	3,601	2,580	2,515	2,465	2,907	7～8月
国民宿舎くろゆり荘		4,036	3,974	3,460	4,970	4,023	3,437	3,246	—	5～11月
そ の 他		29,368	28,361	26,193	31,776	29,705	31,539	34,901	35,696	上記以外の国立公園内の宿泊施設
計		61,399	64,026	54,642	66,863	64,293	63,548	63,424	65,110	
利用者数(千人)		137	140	122	423	384	354	307	314	国立公園石川県内

白山国立公園関係機関

石川県白山自然保護センター

- | | | |
|---|-----------|----------------------|
| { | 石川郡吉野谷村中宮 | Tel 076196—7111 (夏期) |
| | 同 市原 | Tel 076195—5132 (冬期) |

環境庁白山国立公園管理員事務所

- | | | |
|---|----------|-------------------------|
| { | 石川郡白峰村白峰 | Tel 076198—2902 |
| | 同 市の瀬 | Tel 076198—2504 (5～11月) |

石川県自然保護課

金沢市広坂 2—1—1 Tel 0762—61—6111

富山県自然保護課

富山市新総曲輪 1—7 Tel 0764—31—4111

岐阜県環境保全課

岐阜市藪田 1—1 Tel 0582—72—1111

福井県自然保護課

福井市大手3丁目17—1 Tel 0776—21—1111

白山林道石川管理事務所

石川郡吉野谷村中宮
Tel 076196—7341 (夏期)

白山林道岐阜管理事務所

岐阜県大野郡白川村馬狩
Tel 05769—6—1664 (夏期)

白峰村役場観光課

石川郡白峰村白峰 Tel 076198—2011

吉野谷村役場産業土木課

石川郡吉野谷村市原 Tel 076195—5011

尾口村役場観光課

石川郡尾口村女原 Tel 076196—7011

鳥越村役場企画建設課

石川郡鳥越村別宮 Tel 076194—2011

河内村役場産業土木課

石川郡河内村口直海 Tel 07619—2—1100

鶴来町役場産業課

石川郡鶴来町下東 Tel 07619—2—1111

白川村役場観光課

岐阜県大野郡白川村鳩谷
Tel 05769—6—1311

建設省手取川ダム管理支所

石川郡尾口村女原 Tel 076196—7310・7319

建設省白峰砂防出張所

石川郡白峰村市瀬 Tel 076198—2253

建設省尾口砂防出張所

石川郡尾口村瀬戸野 Tel 076196—7003

金沢営林署

金沢市石引 4 丁目16—10
Tel 0762—61—7191

荘川営林署

岐阜県郡上郡白鳥町白鳥
Tel 05758—2—2333

福井営林署

福井市大手 2—11—15
Tel 0776—23—0200

白山比咩神社

石川郡鶴来町三宮 Tel 07619—2—0680

白山観光協会

同上内 Tel 07619—2—0681

北陸鉄道(株)

金沢市割出町 556 Tel 0762—37—8111

白山室堂センター (夏期)

石川郡白峰村 Tel 0761—21—8591

南竜山荘 (夏期)

石川郡白峰村 Tel 0776—54—6280

白峰村開発公社

石川郡白峰村白峰 Tel 076198—2438

一里野公園管理事務所

石川郡尾口村一里野 Tel 076196—7412

鶴来警察署

石川郡鶴来町月橋 Tel 07619—2—1161



白山のブナ林に11月、初雪がやってくると白山国立公園は、約半年の冬の眠りにつきます。

目 次

シンポジウム「白山の保護と利用」

プログラム・参加数	3
白山国立公園の登山施設	4
21世紀への山岳国立公園	四手井 綱英 5
地域振興と自然保護の調整	織田 英二 8
美しい山と土に生きる住民	木村 久吉 9
神の山白山	北村 政次 10
白山地域の現状と課題	紺野 義夫 11
白山国立公園の利用施設	12
討論会記録	14
山に生きる	木下幸雄さん 18
お花畑をいろどる高山植物	21
資料1 白山国立公園関係年表	20
2 白山国立公園地域別面積	22
3 白山国立公園利用者数	22
4 白山国立公園関係機関	23

はくさん 第10巻 増刊号(通巻43号)

発行日 1982年9月20日
 発行所 石川県白山自然保護センター
 石川県石川郡吉野谷村中宮
 〒920-24 Tel 076196-7111
 印刷所 株式会社 橋本 確文堂